

乳房 X 線撮影装置

乳房 X 線撮影検査とは

乳房専用の X 線撮影装置を使用して撮影する検査で、マンモグラフィ検査とも呼ばれます。微細な石灰化や小さな腫瘍等を画像としてとらえることができるため、乳がんの早期発見に欠かすことのできない画像検査の一つとなっています。

当院では、主に女性の診療放射線技師が撮影を行っております。

使用機器について

GE 製 Senographe DS (87 一般撮影室)



特徴

FPD (フラットパネルディテクタ) を搭載しているため、撮影後直ちに画像確認ができます。また、当院ではこの装置又は乳腺エコー装置を利用して、穿刺吸引細胞診 (マンモトーム生検) を行っています。

マンモトーム生検とは

針を刺す部分に局所麻酔を行い、専用の装置を用いて腫瘍組織を吸引して採取します。傷は、約 4mm ほどで縫合は不要です。他の生検方法と比べ、採取する組織量が多いためより確実な診断が出来ます。



検査の流れ (マンモグラフィ)

- ① 撮影前に問診票の記入をお願いしています。
- ② 87 一般撮影室にご案内します。
- ③ 上半身脱衣のうえ、マンモグラフィ用検査着 (マンモエプロン) の着用をお願いします。メガネ、アクセサリなどの金属類を外し、髪の毛が撮影の支障になる場合は結んでいただきます。
- ④ 基本的には、乳房を左右それぞれ 2 方向から撮影します。撮影の際には圧迫板で乳房を圧迫します。これは、乳房を伸ばして広げるにより少ない線量でより鮮明な画像を撮影し、乳腺の状態を細かく観察するためです。圧迫して撮影するためどうしても痛みが伴ってしまいますが、可能な限り少ない痛みで撮影できるように努めています。